

『Mind Charging』

第 191 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 1 月 19 日

エーリッヒ・フロム の名言



Not he who has much is rich, but he who gives much.

たくさん持っている人が豊かなのではなく、たくさん与える人が豊かなのだ。

豊かな人がたくさん与えるものとは、わかりやすいイメージとしては『寄付』ということになります。寄付とは、『金銭や財産などを公共事業、公益・福祉・宗教施設などへ無償で提供すること。災害の際に被災地・被災民へ送られる義捐金・義援金(ぎえんきん)も寄付の一つである。(Wikipedia 参照)』とあります。『寄付＝助ける』ということですが、そのイメージのほとんどが“目に見えるもの”だと思います。ただ、助けになる物事には“目に見えないもの”もあるはずです。それはどういふことなのでしょう。

豊かさの象徴と言え、やはり『財産(金銭)』だと思います。しかし、自分の知識や体力も間違いなく貴重な財産です。自分にとって大切な仲間の存在も本当にかげがえのない財産です。そういう意味では“目に見えない物を寄付する”ということは、『困っている人を助けよう!』という“人間の心”であり、『お互い様』の精神を持っていることが豊かな人の条件のひとつであるということが言えます。人間は一人では生きていけません。そういう意味では互いに支え合う心がなければ人間としての豊かさを手に入れることはできないのではないのでしょうか。正智深谷高校を豊かな人間が育つ学校に創り上げるのは、みなさんが持っている豊かな心に他なりません。(編集委員：入試広報室 鈴木)

エーリッヒ・ゼーリヒマン・フロム(Erich Seligmann Fromm, 1900年3月23日 - 1980年3月18日)は、ドイツの社会心理学、精神分析、哲学の研究者である。ユダヤ系。マルクス主義とジークムント・フロイトの精神分析を社会的性格論で結び付けた。新フロイト派、フロイト左派とされる。フロム本人はエーリック・フロムと発音されることを望んでいたという。フロムは1900年、ユダヤ教正統派の両親の間に一人っ子としてフランクフルト・アム・マインに生まれた。フランクフルト大学に入学するが、1年でハイデルベルク大学に移り、ここで社会学・心理学・哲学を学び、1922年にアルフレート・ヴェーバー(マックス・ヴェーバーの弟)、カール・ヤスパース、ハインリッヒ・リッケルトの指導の下に学位を取得。1926年にはフリーダ・ライヒマンと結婚する。(Wikipedia 参照)